



あなたの会社「経営指針」で強化しませんか？



“経営指針特集”

あなたの会社「経営指針」で強化しませんか？

経営指針とは？

世界でも注目される「理念」の大切さ！



あなたの会社、「経営理念」はありますか？

格安眼鏡チェーンとして、全国に112店舗を展開。2006年には大証△ラクスに上場を果たした株式会社ジェイアイエヌの田中社長が、創業まもないころ経営危機を打開するために、尊敬するユウクロの柳井社長に教えを乞いに行かれたそうです。

その時柳井社長は「あなたの志は何ですか？何のために経営するのですか？」とだけ聞かれたそうです。田中社長は全く答えることが出来なかつたそうですが「念奮起。熟慮の末にJINSコンセプトを確立。その「理念」に基づいて、それまで欧米人の骨格に合わせて作られていたメガネを、日本人の平均的な骨格に合わせて作るという大きな変革を押し進めます。ずれない、フィットするのに痛くない眼鏡は大ヒットし、今や100億円を売り上げる大きなビジネスになっています。

私たちはつい目先の数字や、枝葉末節なことに目を奪われてしまいがちですが、「一番大切なのは「わが社は何のためにあるのか？」と言う問いに対する答えだったのです。

あなたの会社、「経営理念」はありますか？

第33期「経営指針を創る会」のご案内

「経営理念を軸とした指針経営」と「人間尊重の経営」が一層大切になってきています

産業の空洞化、少子高齢化、地域経済の疲弊、増税などによる国民購買力の後退など今後の経営環境は一層厳しさを増していくことが予想されます。そのような環境に負けず自社をたくましく維持・発展させていくためには、同友会が提唱する「経営理念を軸とした指針経営」と「人間尊重の経営」が一層大切になってきています。是非、滋賀県唯一の本格的な経営者の道場＝「経営指針を創る会」にご参加下さい。

「経営指針を創る会」とは

自社の経営の軸となる「経営理念」を策定し、「経営理念」を実現するための「方針」(戦略)、「計画」(具体的年度計画)とあわせて「経営指針書」を作成します。先輩経営者が手弁当で、お手伝いします。

日 程	2012年12月18日(火)	オリエンテーション
	2013年1月12日(土)～13日(日)	第一講(ラフォーレ琵琶湖)
	2013年2月23日(土)	第二講(ラフォーレ琵琶湖)
	2013年3月16日(土)	第三講(ラフォーレ琵琶湖)
	2013年4月20日(土)	第四講(ラフォーレ琵琶湖)
	2013年5月18日(土)	第五講(ラフォーレ琵琶湖)
	2013年6月15日(土)	第六講(ラフォーレ琵琶湖)

会場は予定です。都合により変更する場合があります。

費用 ● 13万円(会場費・食事代・資料代含む。全講受講が原則です。)

参加資格 ● 滋賀同友会会員、または後継者



参加お申込み用紙

第33期「経営指針を創る会」への参加を申し込みます。(FAX 077-561-5334)

支 部	_____	会社名	_____
氏 名	_____	E-mail	_____
電 話	_____	FAX	_____

「経営指針」で未来に自信がもてた

職場に一体感が生まれてきました



(社)八身福祉会
施設長 小島滋之氏
(第28期経営指針を創る会受講)

八月に法人設立十五周年記念式典を開催し、市長をはじめ議員や取引企業様など二五〇名のご臨席者に向けて経営指針を発表し、今後の運営へのご理解とご協力をお願い申し上げたところです。第二十八期創る会を修了し、二〇二一年に施設長としてご指名頂いた時に、所信表明としてまずは施設内で指針を発表致しました。それまでは成文化した理念や方針がなく、施設の方

向性や利用者の支援においては職員の考えもバラバラの状態でしたが、今では徐々に指針経営が施設内に浸透しつつあります。創る会受講時は、毎回自信をもって課題を提出すにも関わらず、OBからの問い掛けに木端微塵となり、如何に自分の考えが表面上だけの浅はかなもので、言葉ばかりを飾ろうとしていたのかを思い知らされました。卒業後も委員会活動や例会にも参加させて頂き、指針という経営の軸は本質から更に太くなりつつあることを実感しています。

霧が晴れ 毎日の業務に活力が



寺田商事(株)
取締役 寺田好孝氏
(第29期経営指針を創る会受講)

弊社には成文化された経営理念がありませんでしたので、「創る会」への参加の目的は明確でした。半年かけて産みの

苦しみをもって作り上げた指針書を、社内で発表しましたが、何を言いたいか全てが伝わりません。そこで、指針書をさらに噛み砕いて「モットー」や「合言葉」にまで掘り下げ、スタッフと共有することにしました。指針書を作った良かったのは、まず、自身の頭の整理ができたことです。そして、会社が進んでいる方向が、少しずつ社員にも理解されたのか、私が「何を考えているのか分かりにくい」といった類の言葉を社員から聞くことが少なくなりました。私たちは、新しい経営指針で歩み出したばかりですが、これまで霧の中を進んでいたように感じていた会社経営でしたが、今はやるべきことが明確になり、社員の毎日の業務にも活力が溢れるのが感じられています。



大切な価値観・人間観を再発見
安心コンサル(有)
営業部長 加賀山 望氏
(第31期経営指針を創る会受講)

「経営指針を創る会」を受講し始めた頃の私は、保険代理店の後継者として経営環境の急激な変化への対応にひどく悩んでいました。あせりと不安の中で臨んだ第1講でしたが、急場しのぎで作った経営理念から私の大きな迷いと弱さを見透かされ、OBの皆さんから厳しいご指摘を受けました。そして自分という人間が経営者としてはおろか、「社会人」人間としても未熟であることを思い知りました。この日を境に経営理念を創るための準備の時間は自分の人生を振

り返り、忘れていた大切なものを取り戻す時間になりました。これまでの人との関わり方全てにおいて深く反省した結果、大切になっている価値観や人生観を再発見し、経営理念として自分だけの言葉につづることができました。自分と深く向き合ったこの時間は、今でも人生のターニングポイントであ

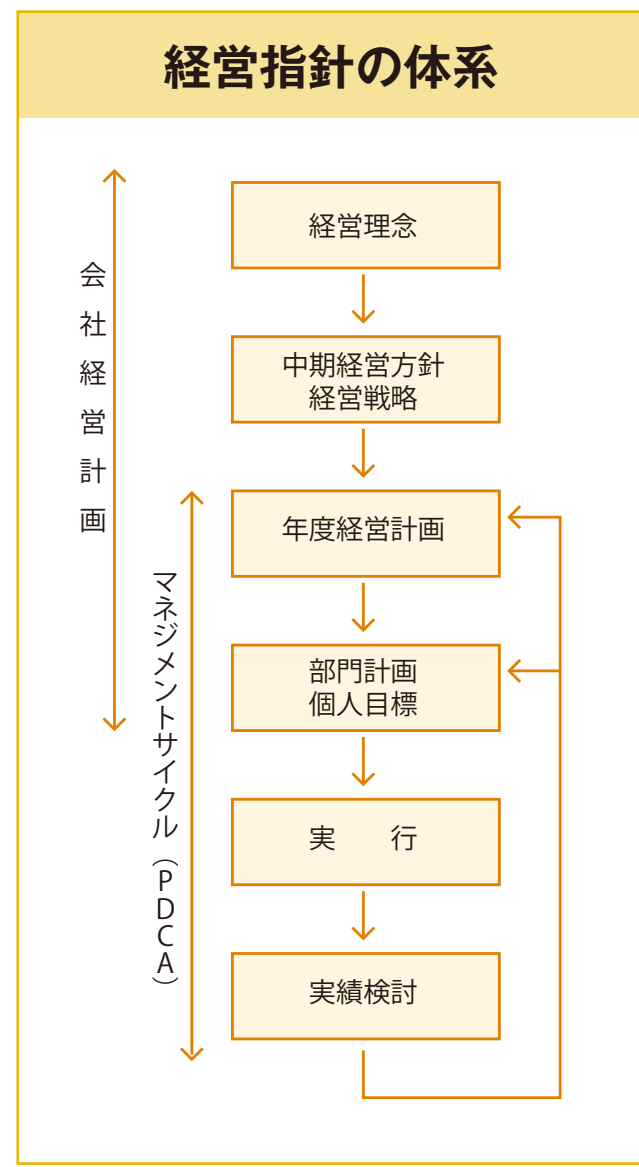


経営指針とは？

「何のために経営するのか？」と言う、自社の存在理由を明らかにする「経営理念」は会社を単なる人の集まりから、生命力を持った有機体にするための「魂」のようなものと言えるかも知れません。しかし、「理念」が出来たから、会社が着実に変わって行くほど単純なものでもありません。「理念」の実現に向けて自

社の内部環境、外部環境などを分析し、適切な方針(戦略)を立てる必要があります。また、方針を立てただけ、実際には日常業務に忙殺されて、同じところをぐるぐる回っているだけでは会社は、一向によくはなつていきません。このため同友会では「経営理念」+「中期経営方針(戦略)」+「年度経営計画」の3つを一体とし

て作成、実践することを推奨しています。この3つをまとめたものを「経営指針書」と呼んでいます。経営者をはじめ、全社員が常に「経営指針書」を意識して、それに基づく、業務、行動、思考を日々積み重ねることが「良い会社」になっていくための必須の条件だと考えています。



世界でも注目される「理念」の大切さ！

基本理念をしっかりとさせ、進歩を促す仕組みをつくるビジョナリーカンパニー

2001年に発行され、世界の経営者に大きな影響を与え続けている本があります。「ビジョナリーカンパニー」。業界で50年以上にわたって卓越し続け、尊敬し続けられている700社に上る企業を研究して来た二人のアメリカの研究者が書いた本です。そのポイントは書名のとおり「ビジョン(理念)に裏打ちされた会社」。2人の著者は、「自らの会社を成功し、尊敬し続けられる会社にするためには、何から始めればいいのか」という質問に対して、「基本理念をしっかりとさせ、進歩を促す仕組みをつくることである」と答えています。これらの会社は、市場環境

の変化などによって、戦略を変えることは躊躇しませんが、基本理念を変えることはありません。ビジョナリー・カンパニーといわれる企業が、卓越した地位を獲得できているのは、将来を見通す力が優れているからでも、成功のための特別な秘密があるからでもなく、単に自分自身の役割が明確で、そのレベルアップをめざし続けているという単純な事実のためなのです。世界でも注目される「経営理念」の力。ぜひあなたの会社でも取り組まれることをお勧めします。